

空一面の星々とも見えし

天の軍勢が一斉に声を張り上げ、神さまをお誉め申して歌い始めてござる。

「¹⁴天の高みでは神さまに輝く喜び！」

土の上では御心に叶う人らに静かな安らぎ！」

¹⁵み使いたちが天に帰った後で、羊飼どもは互いに申してござる。

「さあ、ベツレヘムへ行こう！ 我らが御あるじなる神さまがわしらにお教えなさったほ（こと）をこの目で確かめよう！」^①

¹⁶かくて、野を走り丘を駆け、マリヤムとヨセフと飼いた葉桶に寝ていたかの赤子を見つけ申した。

¹⁷これらのことを目のあたりにして、この者らは、かの赤子についてみ使いが語ったもうた話を辺り一帯に話してまわったのでござった。¹⁸羊飼ども

の話聞いた人々は皆、「不思議なこともあるものよ」と、目を丸くしたものでござる。¹⁹このことを何が何やらわからぬままにマリヤムはずっと忘れず心の中で繰り返し繰り返し思い出しては考え続けていたものでござった。

²⁰羊飼らは、かかることをみ使いから聞かされ、また己が眼でもしかと見たることとて、「神さまはまったくもって大したものぢや」と言い合いながら、それぞれの家へと帰って行つたのでござった。

²¹八日の日が経ち、へのこの皮切りの日が来て、お腹さまにお宿りなさる前にみ使いに言われたとおり、赤子はイエシューさまと名づけられたのでござる。

一〇・お宮に捧げられる

²²さて、

①産後の四十日が経ち、

産忌祓いの日^{さんびばら}が来て、親御^{おん}たちはモーセさまの掟^{おきて}に従い、イエシュエさまを我^{われ}らが御ある^{おん}じなる神さまにお捧^{ささ}げ申^{まう}すべく、赤子^{あかこ}を抱^{かか}きて「聖なる都^{みやこ}」ヒエロソリユマに初詣^{はつげ}でのお宮参りに上^{のぼ}つてござる。「²³母の腹から初めて生まれた男の子は我^{われ}らが御ある^{おん}じなる神さまにお捧^{ささ}げ申^{まう}せ」と、掟にある通りに致したのでござる。²⁴また、御ある^{おん}じなる神さまの掟に「山鳩^{ひとつがい}の一番^{いちばん}か、鳩の雛^{ひな}を二羽^{ふたひ}お供^{とも}えせよ」とある通りにお供物をお捧^{ささ}げ申^{まう}した。

²⁵さて、御覧^{ごらん}あれ、ここイエルサレムにシメオンという名^なの人がござった。この人は曲^{まが}つたことをせぬ、心の立派^{りつぱ}な人で、

夷狄^{えびす}の支配のもとに虐^{あづか}げられ、

嘆^{なげ}き悲^{かな}しみおるイスラエルの国民^{くんにたみ}が神さまに慰^{なぐさ}めていただける日の来るのを今^{いま}か今^{いま}かと待ち焦^こがれていたのでござる。また神さまの畏^{かしこ}き御息^{おんいき}がいつもこ

の人を温^{ぬく}かく包^{つつ}みこんでいたものでござった。²⁶さらに、神さまの尊^{たうと}い御息^{おんいき}は、この人の目の黒きうち^{うち}に必ず我^{われ}らが御ある^{おん}じなる神さまのお遣^{つか}わしなさるお助けさまをその眼^{まなこ}で見^みるべしということを、やさしくお聞^{きこ}かせなさつていたものでござった。

²⁷丁度^{ていど}そのとき、あたかも神さまの御息^{おんいき}に導^{みち}かれたるがごとく、かのシメオン^{しめおん}がお宮の中庭^{ちゅうてい}に入り来てござる。まさに兩親^{ふたおや}もイエシュエさまを連れ、掟通りにことを運^{はこ}ばうと、入^いつて来た折^おりのこと^{こと}でござった。

²⁸シメオンは、かのお子を己^{おの}の腕^{かみ}に抱^{かか}き奉^{ほう}り、神さまを讀^{よみ}えて、かく申^{まう}してござる。

「²⁹我^{われ}らが御^{おん}あるじとして

お仕^{つかさ}えまつる尊^{たうと}い神^{かみ}さん、

お言葉^{ことば}の通^{とお}り、今^{いま}この僕^{しもべ}を

安^{やす}らかに逝^いかしとくれやす!

³⁰わたくしは今^{いま}まさに、

お遣^{つか}わしやしたお助^{たす}けさんを

しかとこの目で

見たのでござりまっさかい。

31 我らが御あるじなる神さんの

お遣わしやしたこの和子こそは、

すべての民の大きな助け。

32 異邦の民草を照らす光、

イスラエルの誉れぢや！」京

33 両親はこの子のことでこのようなことを言われ

て、これは全体何事ならんと怪しみてござる。

34 シメオンは、この親たちに祝いの言葉を述べ

て、それから母マリyamに向かつて言うことには、

「見とおみやす（御覧なさい）、この和子は、イスラエ

ルの中の大勢の人を、ある者は倒れさして、またあ

る者は立ち上からすのが定めであらしやります。さ

らにはまた敵の槍玉にあげられる定めでもあら

しやります。35 さまざまの人の心の思いが剥き出

しになるためでござります。そつして、そなたさま

の心は悲しみの①剣で刺し貫かれますやろ。」京

36 さてここに、アンナという御言持ちの媼がこ

ざった。アセル族のファヌエルの娘にて、既にな

りの齢を重ねてござった。まだ若かりし頃に七年

夫と連れ添ったなれども、37 寡婦となり、八十四の

歳になるまでお宮から離れず、飲み食いを断つた

り、願い事をしたりなどして、夜も昼も神さまにお

仕え申していたものでござった。

38 丁度そのとき、この御言持ちの媼がそばに寄つ

て来て、神さまを繰り返し繰り返し讃えつつ、イエ

ルサレムの、神さまのお助けを待ち焦がれている人

皆に、この赤子のことを語り聞かせ始めたのでご

ざった。

一一・ナザレに帰る

参照 マタイ 2 22-23

めでたく初子を授かりたる折りにはかくな
すべしと

それから八日が過ぎました。新生児死亡率の高い時代です。イエス様の生まれた場所・時代の決まりとして、生まれた子どもがきちんと育つかどうかを見極めるために定められていた「八日」でした。その八日が過ぎましたので、生まれた赤ちゃんは無事に「イエス」という名前を付けられました。この名前は、ユダヤの古い言葉で「イエホシユア（ヨシユア）」という言葉のナザレ地方のいい方でした。イエス様はナザレの人の子どもだったのです。ナザレという場所は、首都エルサレムのあるユダヤに占領され飲み込まれていました。首都エルサレムから遠く離れたナザレの地では、ユダヤの発音は変わります。「イエホシユア（ヨシユア）」という音は、「イエス（イエスース）」となる。その言葉の意味は「聖書の神様は、救ってくださる」という意味でした。「イエス」というこの名前は、「受胎告知」のために訪れた天使の告げた名前でした。

赤ちゃんが生まれる、という事は、いつの時代でも、大事（おおごと）です。（特に、二十一世紀から数えて二百年前までは）世界中で、「血」は病気の元とされていました。「血」は「穢れ」とつなげて理解されていたのです。出産には、当

然、「出血」が伴います。それで、生まれた赤ちゃんも、産んだ母親も、「穢れている」ということになります。「穢れ」には、定められた期間の「きよめ」の作業が必要です。その作業をしている間、基本的には外に出ることも、人に会うことも、禁じられます。そうして、伝染病の蔓延を防ぐ。それが人類の英知となっていました。イエス様の時代・イエス様の国では、「モーセの掟」に従って、その「きよめ」の期間が定められていました。ようやくその定められた時が終わりましたから、マリアとヨセフとイエス様は、首都エルサレムに向かいました。出産のお祝いということで、神殿への「お宮参り」に行つたのです。この当時、この神殿では、最初に生まれた最初に生まれた男児を「神様の子ども」としてお捧げし、そして、その子どもの両親はその子どもをお預かりして、育てる、という儀式をしました。それから、その子どもの両親は、神様に生贄（いけにえ）として、山鳩ひとつがい、家鳩のひな二羽を捧げました。それが聖書の規定だったのです。

その頃、首都エルサレムには一人の特別な人がいました。その人の名前はシメオンといいました。神様の前に正しい人

であり、信心深いことで有名でした。その当時、ローマ帝国の圧迫に必死に耐えているエルサレムの苦勞を思い、神様の慰めがあるようにと、いつも神殿で祈っている老人でした。

神様の特別の息吹が、いつもこのシメオンの上に注がれていました。神さまの特別の息吹が、シメオンに一つの悟りを与えていました。つまり、「自分は聖書の神・主から送られてくる救い主を見るはずだ」という悟りでした。「それまでは決して死なない」と、彼は確信していました。この日も、シメオンは神さまの息吹に満たされながら神殿の中にいました。まさに、赤ちゃんのイエス様がその両親に連れられて神殿に入ってきた時のことです。聖書の掟に従って儀式をし、捧げものをするはずの赤ちゃんイエス様とその両親に、シメオンは出会ったのです。シメオンはイエス様を抱き、そして神さまを褒め称えて（ほめたたえて）言いました。

今こそ 去らせて 下さいますね。

神さま、あなたが このわたくしを。

私の主（あるじ）よ 聖書の神よ。

あなたのことばを 私にください。

穏やかに 私を去らせて くださるように。

何しろ私は 今ここで

あなたの救いを 見たのです。

私が見ている この救い それはあなたが

すべての人の 目の前に はっきり示してくださったもの。

諸国の民の すべての人に 照り輝いた 光です。

あなたの民も これを見ました。

これを見たのは まさにあなたの イスラエルです。

イエス様の父と母は「これはいったい何の事だろう」と顔を見合わせました。イエス様について語られたこの言葉の意味が、よく分からなかったのです。そんな二人のことはお構いもせず、シメオンはイエス様の母親であるマリヤムに向かつてこう言いました。

ごらんなさい。

この子どもに 約束された 出来事を。

この子のために 倒されるのは イスラエル。

この子のために 立ち上がるのも イスラエル。

この子のために 異論は起こる。

鋭い異論は 剣のように

あなたにもまた 突き刺さる。

貫かれるのは あなたの魂。

激しい痛みの その中で

多くの人の心の思いが

その覆いを剥ぎ取られ

すっかりそのまま 露呈します。

神殿にはその時、アンナという人もいました。ファヌエルの娘で、イスラエル十二支族の「アセル族」の一人でした。

たいへんな年寄でした。七年間、夫と共に暮らした後に寡婦となり、八十四歳になりました。いつも神殿にいて、断食をし、祈って、夜も昼も過ごしていました。シメオンとイエス様たちが会っていたその時に、広い神殿の境内にいたアンナは、四人の所にやって来て立ち、神に対して賛美の声をあげました。そして、ローマの圧迫に必死に耐えているエルサレ

ムが解放されることを待ち望むすべての人に、イエス様について語ったのです。

イエス様の両親は、聖書の神・主が定めた手続に従ってすべての事を終え、ガリラヤに帰りました。自分たちの町・ナザレに、三人は戻ったのです。

イエス様は一人の子どもとして、どんどん成長しました。そして体は強くなり、頭は賢くなって行きました。神様の恵みがその上にあつたのです。

幼児イエスとシメオン老人

(ルカ福音書二章一九―三六節)

私たちは、シメオン老人がいかにもイスラエルの解放を待ち望み、聖霊によって神殿に導かれたかを讀んだ。彼は御子を見て、腕に抱き、彼について預言した。私たちはシメオンの最初の言葉について討論した。

主よ、お約束のとおり、あなたの僕を安らかに死なせて下さい。

ウィリアム 老人シメオンは、この民族全体の名において話しているんだ。今なら、われわれは安らかに死ねるだろう、なぜなら到頭、長く待ち望んでいた救世主がお生まれになったからだ。自分たちがそんなにも長い間、待ち望んでいた事柄が実現したのを見て、共同体全体がホッとしたというわけだ。全人類が救世主を待っていた。全人類が今こそ、到頭、救世主がいらしたと言ったことだろう。トマス・ペーニア そりゃあ、この老人にとって大きな喜びでござえましただろうと、僕は思います。後はただ、ひとり静かに死ぬことをこの人は必要としていたんです。

トマス老人の息子フェリペ　こういう考えが浮かんだんだよ、エルネスト。解放者が生まれる以前には、人々は絶望して死んで行つた。彼らはなぜか解らないまま死んで行つた。そうじゃないか？しかし、この老人が死んだとしても、彼はすでに解放者が存在していることを知って、だから他の人々も皆絶望して死んで行くのではないということを理解したんだ。

ウィリアム　そうだ、フェリペの言っていることは正しい。旧約聖書を読むと、すべての王や賢者や預言者たちがつねに非常な胸苦しさを覚えながら、死について語っている。彼らは死者の世界へ降りて行き、主に自分たちを死なせたりしないように願っている。彼らはすべてを、ひとつの大きな闇のように見ていたんだ。彼らは彼岸に何を期待したらよいのか解っていないかった。さてそれからこの老人さんだけけど、なんて彼らとは違っているんだろう。彼は幸せに死んで行くんだ。彼自身、自分の眼で解放者を見たからだけじゃない。彼はこの後来るものが解っていたからだ。

テレシータ　解放者は死にうち克つたために行らしたんですものね。

なぜなら、私の眼はもう主の救い主を見ました。その救い主は、あなたが万民のためにとのえられたもの。

フェリペ　彼は、救い主はすべての人のために来た、と言っている。解放者はすべての人々のために来たのだが、救い主に従ったのは幾人かの人々で、他の人間たちはそうではなかった。事実、救い

主はすべての人々のために来たのではなく、彼に従う少数の人々のために来たんだ。すべての人々が救い主に従っていたとしたら、彼はすべての人々のために来たことになるのだろうけれど。

トマス 当り前のことでさ。救い主は彼に従いたいと思っていた人々のために来なさっただ。それがこのところで言われてる人々のことだろうて。

ウィリアム 導き手として、長として。すべての人の先に立って歩く人として。

彼は異邦人を照らす光。

アレファンドロ 僕は、彼はすべての人のために来たのであって、彼に従う人々のためにだけ来たんじゃないと思う。いつか或るとき、すべての人々がこの光を見ることになるんだ。この箇所で、聖書はまず最初にこの老人にだけ光を当てているけれど、老人にはすぐに、この光が彼のためにだけあるのではないことを知る。彼は、この光が異邦人たちを照らすことになるだろう、と言っているね。ということはつまり、すべての人間という意味であって、イスラエルの民のみを意味しているわけではない、ということになる。僕はこの箇所を、全世界に関わることに理解したんだ。そうじゃないのかな？

フェリペ 違うよ、アレファンドロ。確かに、誰もそれに異を唱えはしなかった。キリストはすべての人々のために来たんだと。ただ、すべての人々が彼に従おうとしたわけではない。しかし、原則

としては彼はすべての人々のために来たんだ。

ウィリアム 救い主は、すべての人が見ることが出来る光のようなものだった。そして彼に従いた
 と思う人が彼に従った。

フェリペ そうだ、光なら誰だって見る事ができる。しかし、闇にとどまりたいと思う人間が居
 るならば、それはそれで……。

アレフアンドロ 違う。すべての人々に届くからこそ光なんだよ。

ドン・パトリシオ ただ、幾人かの人はその光を見ようとしなかった。

チャエル それはその人たちだけの罪ではなくて、光の罪じゃないのか。

チャエルの母、ナターリエ。——光に従いたいと思う人は、光に照らされたから光に従った。それ
 はことまったく同じ状況ね。だって、エルネストは私たちにひとつの道を示してくれたわ。そして
 私たちはエルネストに従って行く。エルネストに随いて来ようとしないうちは、きつと不安なのよ。
 馬鹿らしいと思ったらありゃあしない！ キリストが自分で革命を行われた時に、不安なんかなかった。
 それとまったく同じように、私たちは行動しなければならぬんです。もしかすると、私たちは逮捕
 されるかも知れない。もしかすると、人々は私たちをいろんな目に会わせるかも知れない。……馬鹿
 らしいことよ！ いずれにしたって、私たちは死ななきゃならないんですからね！ 「それじゃあ、俺
 たちは関係しないよ」って言う人も居るわ。……「俺はなんにもしようとは思わない」とか、「私は、
 私たちの身に何も起こって欲しくないのよ」なんてね。……いいえ、私は一緒にやります。そしてあ

の人たちが私を殺そうとしたら、私はさっさと死んで行きます。あの人たちが私を逮捕するって言うんなら、私は行きますよ……

フェリオ あえて前線に立つって言うんだね。

フェリベ 人は己が身体を救いたいと欲すれば、その魂を失う……

—— 私たちは不安なんて捨ててしまわなくてはね——とナターリエが強調した。

私は言った。——福音書が語っている光というのはね、この光は今のナターリエを私たちの念頭に固くといいいんだね。ナターリエの言葉が私たちに、私たちの使命を明らかにしてくれる。

それは主の御民イスラエルの誉れ。

アレフアンドロ この光はイスラエルの民でないものをも照らす。イスラエルは選ばれた民、すべての人々の先頭に立つ民なんだ。だからこそ救世主の誕生はイスラエルにとって名譽であるのだけだ、実際には、全世界のすべての人々が解放されるべきなんだよね。

私は言った。——数行前で言われていたことは、シメオン老人がイスラエルの解放を待ち望んでいた、ということだった。今や老人は御子を腕にして、イスラエルの解放とは全世界の解放を意味している、と言うんだね。

そしてフェリオ。——イスラエルは貧しい、圧迫された民族だった。それは、今のマナグアにある

アカファリンカのような一角だった。しかし、貧民街出身の人々を解放する解放者は、必然的に全土を解放しなければならないことになる。この貧民街だけではなくてね。

私 これら貧しい人々を通じて、イエスは後に他のすべての人々を解放したいと思ひ召した。貧しい人々は他の人々を解放するだろう。それはイスラエルにも言えることなんだ。神はのちのち、この民を通じて、地上の他のすべての民族を解放するために、この圧迫されている民族を選ばれた。ウイリアム キューバもそうなんだ。キューバの民衆が解放されたように、将来は他のすべての民衆が解放されることになるだろう。

子供についてこう語られたことに、その父親も母親も驚いた。

「彼らは驚いたんだよ」と私は言った。ということは、イエスの両親は、今日私たちが理解しているのと同じように、この言葉をすべて正確に理解したんだ。

そしてシメオンは彼らを祝福してから、母のマリアに、「ごらんなさい。この御子はイスラエルのたくさんの人々が、あるいは倒れ、あるいは立ちあがるために定められている御子です」と言った。

ナターリエの次男エルビス。——倒れる人々とは絶対に金持のことでしょう。そして立ちあがる

人々というのは貧乏人のことですよね。

フェリベ 搾取者、悪い人間たちは倒れるんだ。善良な人々が立ちあがる。貧乏人たちが言うことを聞かなくなり、蜂起すれば、金持たちは倒れる。

テレシータ シメオンは、マリアさまがもうマグニフィカートで言っていらいっしょなことにまったく同じことを繰り返しているんですね。彼はつまり、権力の座に坐っている人々を追いつき、卑しい人々を高めている。

マルセリーノ 当時と較べれば、ゆっくりとはあっても、この世界は解放されているよね、エルネスト。今では世界はもはや、ほんとの奴隷が居た昔ほどひどくはない。

私は言った。——事実、人間の状況は歴史を経ることによって、いくらかは良くなっている。改革や革命によってね。するとトマース・ペーニアが私を遮った。

——きょうび、金持たちは労働者にいくらかましな手間賃てまけんを払ってくれます。それで貧乏人たちでも、ちょっとばかり行動の自由ってもんがあります。昔しゃあ、みんな今よりもっと夢中で仕事を探して、賃金ときたひにゃあほんの僅すこかっぱかりのお金でした。働くものにとっては辛かったですだ……

私は言った。——僅かだけれど、状況は事実よくなっている。しかし、物ごととは完全な変革によって、いちどきに新しい軌道に乗せることができるんだ。——

トマース しかし、恐らくだんだんに。

フェリペ エルネスト、僕の親爺が言っているのは、金持たちがいつも僅かずつ賃金をあげているのは、ただ、革命が起きたりしないように民衆を宥めるためだということだと思う。それは金持たちの戦略なんだ、民衆の目隠しをするためなんだ。だがそこで、僕たちは気をつけなくちゃあいけない。僕たちはそんなやり方を永久に我慢してはいないぞ。彼奴らは、ほんのちょっと余分に払うだけなんだから！

ウィリアム（微笑しながら） 進歩のための同盟だね。

チャエル 手綱をほんの少し緩めているだけなんだ……

トマス そうだ、それがあん人たちのやり方なんだと僕は思っているだ。あん人たちは、昔みたいにひどい扱いはいしやねえ、ちょっとばかりなら譲りもするだて。……僕らがそれをいちどきに、みんなひっくり返してえのは当り前だ。だけど、それはそんな簡単なことじゃねえ。僕らは闘う方法を探さなきゃなんねえだよ。

この人はさからいのしるしとなるでしょう。そこで多くの人々の秘かな思いが明らかになります。だが、あなたの心も、剣で貫かれるでしょう。

レベーカー マリアさまがその息子に従い、人々が彼を捕え、殺したとき、その他すべてのことが起こったとき、マリアさまが受けられた苦しみのことね。それがマリアさまのお心を刺し貫いた剣だっ

た。

ウィリアム 苦しみなくして解放の過程はないんだ。このことはいつも忘れてはいけないことだ。避けられないことなんだからね。

フェリベ これはイエスの身に起こったことだ。だが、民衆を解放したいと望む者のすべてに起こって来ることもある。

ウィリアム それはいつでも、つねに起こることだね。

私は言った。——だからこそ、マリアは、よく心を刺し貫く剣という言葉によって描写されるんだね。多くの人が彼女の息子に敵対し（なにしろ、「さからいの御しるし」なんだから）、彼女の息子の到来によって、人類が分割されていることがはつきりと明らかになった（「多くの人々の秘かな思いが明らかにになった」んだから）。それは今日でも、私たちが階級の分裂について話すのとまったく同じことなんだから。マリアはその苦しみを受けられたんだ。これこそが、イエスの苦悩と死が引き起こし、人類の真只中を通っている分裂なんだ。今日だってまだまだ、この分裂はマリアの心を貫いた剣のようなものなんだ。